

研究所だより

第401号
2019年 5月20日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“卯の花の 匂う垣根に
時鳥（ホトトギス） 早も来鳴きて
忍音（しのびね） もらす 夏は来ぬ
さみだれの そそぐ山田に
早乙女が 裳裾（もすそ）ぬらして
玉苗（たまなえ）植うる 夏は来ぬ”
『夏は来ぬ』 1896年 日本の歌曲



～新緑がまぶしい季節となりました！～

野山の新緑も目立ち始め、少しずつ夏を感じさせてくれる頃となりました。
各校では校長先生のリーダーシップのもと、学校目標・研究主題の具現化に向けて“チーム学校”で取り組んでいることと思います。また、春運動会実施の学校では、運動会の目標を明確にし、目標達成のために時間を有効に活用しながら取り組んでいるようです。

＝授業の見方・教室の見方＝ (教育ジャーナル 5月号から)

授業をどこから見るのかを考える

見る位置によって見えるものが違う

授業をどこから見るのか。其れによって、見えるもの、見えないものに大きな違いが出てきます。教師の様子をじっくり見るのか、子どもたちの表情を見るのか、子どもたちのつぶやきを聞くのかなど、その目的によって最適な参観場所が変わります。ですから、今この時間（場所）は、何に重点を置いて参観するのかということを確認にして、それに応じた参観場所を選びましょう。

今回の記事では、参観位置を、「教室の後から」「子どもの隣で」「教室の前方から」の3つの場所から、そのうちの「子どもの隣で」の参観については、さらに細かく「授業者の後を追う」「授業者が行っていない子を見る」「1人の子に注目する」の3つに分けて考えています。

1. 教室の後から見る

教室の後から授業を見ます。この場所に見えるものは、一番後に座っている子どもから見えるものとほぼ一緒です。つまり、子どもの立場で授業を見るともいえます。授業者はどんなふうに発問、指示や板書を行っているのか、どんな表情をしているのか、どこに立って話をしているのか、授業者の声は後の席の子どもまでしっかり届いているのか、どんな教材をどんなふうに掲示しているのか、教材は見やすいか、有効に機能しているのかなど、その授業を受けた子どもの学びをともに体験することができます。

2. 授業者の後を追う

～子どもの隣で授業を見る その1～

机間指導をする授業者の後からついていき、授業者が子どもたちに指導する様子を観察します。どの子にどんな評価や支援をしたのか。どんな経路で机間指導をしたのか。その意図を探ることができます。また、その後の子どもの変容なども見るすることができます。

3. 授業者が行っていない子を見る

～子どもの隣で授業を見る その2～

授業者が机間指導をしている際に、授業者から離れた場所の子どもに注目し、授業者が発見しなかった子の反応を探します。このとき大切なのは、どの子に注目するかということです。適当に回っていて何かを発見する場合もありますが、参観目的達成の確度を上げるためには、どの子に注目するのか事前に目星をつけておくようにしたいものです。例えば、各場面で鉛筆が動いていなかった子、逆にどんどん書き進めている子といったことなどから注目する子を抽出します。

4. 1人の子に注目する

～子どもの隣で授業を見る その3～

前項の「授業者が行っていない子を見る」の同様に、目星をつけた子に注目します。異なるのは、授業開始から1時間ずっと1人の子の様子を見続けることです。

5. 教室の前から見る

教室の前方から授業を見ます。こうすると、授業者の立場から授業を参観することができます。また、子どもたち全員の表情を見ながら参観することができます。授業者の説明、発問、指示に対して、子どもたちがどのように反応するのかがよく見えます。

ですから、授業者のさまざまな振る舞いと、子どもたちの表情とを関連づけて見ていくことができます。

例えば、今の発問に対して授業者は、なぜあの子を指名したのか、自分ならどの子を指名するだろうか、子どもたちの理解度はどの程度だろうか、その子の気づいていることがありそうだから意見を聞いてみたい……、そんなふうに思いを巡らせながら、子どもたちを見ることができます。

また、授業者が誰を指名して、その意見をどう価値づけたか、発言した子はどんな反応をしたのかなどを観察することができます。



＝第1回教研推進委員会＝

4月11日（木）に第1回教研推進委員会が開催されました。

(1) 2019年度教研推進委員

氏名	所属	地区
中屋 俊也	下ノ加江小学校	東部
小川 登美夫	清水小学校	中央Ⅰ
南 聖香	清水中学校	中央Ⅱ
福留 未佐	下川口小学校	西部
筒井 広実	校長会	中央Ⅰ
溝渕 紀仁	渭南教組（足摺岬小学校）	東部
田中 聡子	教育委員会	事務局
勝間 康人	教育研究所	事務局
岡田 佐知	教育研究所	事務局

(2) 2019年度の取組について

- ①組織教研： 5月 8日（水）
- ②部長・研究協力校・研究グループ等代表者会：
- ③一日教研： 8月7日（水）
- ④半日教研： 11月6日（水）
- ⑤総括教研： 1月末までに

(3) 2019年度予算（教育研究推進委託事業）

- （予算額：70万円）
- ・各部会の要求額については、事務局で検討する。
- ・部会予算は研究目的に沿って執行する。
- ・12月末で会計処理をし、予算残額があれば事務局へ返金する。

(4) 「清水の教育」について

- ・原稿はデータ化して研究所まで提出する。
- ・原稿提出締切（1月末）を厳守する。
- *今年度より冊子製本を止めることにしました。
- 各校へは、ファイル綴じ1冊、CD1枚を作成・配布します。



＝第69次土佐清水市教育研究集会・組織教研＝

5月8日（水）清水小学校を会場に「第69次土佐清水市教育研究集会・組織教研」が開催されました。今年度は、11部会87名でスタートしました。各部会では、組織作り・研究テーマ・年間計画・予算等について真剣な話し合いが行われました。各部会の研究テーマ・計画等を紹介します。

国語部会	『主体的・対話的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育てる授業づくり』
永野 美華子	8月 7日 指導案検討、情報交換、小中のつながり・はがき新聞について (講師招聘)
(7名)	11月 6日 研究授業（清水中：牧野 桃子） 1月未定 年間総括

社会科部会	『社会科の指導法の研究－フィールドワーク・地域教材を活用して－』
尾崎 俊巳	8月 7日 フィールドワーク（講師招聘）
(5名)	11月 6日 研究授業（足摺岬小5・6年：北代 可也） 1月16日 年間総括

算数・数学部会 『楽しく分かる深め合う算数・数学の授業の創造』

松本 哲郎	8月 7日 講話
(12名)	11月 6日 研究授業（下川口小：吉本砂紀） 1月21日 年間総括

理科部会 『わかる楽しい授業づくり』

奥谷 博史	8月 7日 フィールドワーク（講師：ジオパーク専門員）
(6名)	11月 6日 研究授業（幡陽小：北代あかね） 1月中旬 年間総括

図工部会 『豊かな発想で創造する力を育てる』

網師本 真理	8月 7日 実践講習・物づくりに活かせる「プログラミング」、コースターづくり
(8名)	11月 6日 研究授業（清水小：不破由美子）、情報交換、作品交流 1月16日 年間総括、「清水の教育」原稿確認

体育部会 『小・中一貫した体力づくりの授業を目指して』

山本 博之	8月 7日 「ダンスで動きづくり」授業に使える体の動かし方やポイントについて学ぶ
(7名)	11月 6日 研究授業（清水小：今津 好智）、研究協議 1月16日 年間総括、「清水の教育」原稿確認

外国語部会 『みんなが意欲的に取り組む授業づくり～小・中の連携の強化～』

竹葉 美紀	7月予定 清水中授業参観（村上美佳）
(8名)	8月 7日 講話（松本指導主事：西部教育事務所） 11月 6日 研究授業（清水中：野崎愛加）、松本指導主事：西部教育事務所 1月中旬 総括教研、「清水の教育」原稿づくり

養護部会 『地域に根ざした健康教育～小児生活習慣病について～』

溝渕 三枝	7月 2日 今までの取組の振り返り
(8名)	8月 7日 保健師を招聘しての勉強会 9月12日 生活習慣病について、冊子づくり 11月 6日 4年間の健康教育のまとめ① 11月28日 4年間の健康教育のまとめ② 1月21日 総括 3月 3日 次年度に向けて、今年度の健診結果確認

事務部会 『「学校事務をふかめる」－組織の一員としてできる学校事務を考える－』

細川 千帆	6月21日 各種手引きの見直しや様式改善について検討、年間計画の確認
(7名)	8月 7日 校務支援システムの研修ほか（講師招聘） 11月 6日 特殊業務手当について、業務改善についての協議ほか 1月未定 年間のまとめ他

人権教育部会 『差別の現実から深く学び、自分の課題としてどうとらえるか』

溝渕 紀仁	6月21日 各種手引きの見直しや様式改善についての検討、年間計画の確認
(11名)	8月 7日 「同和問題について」講師：三木 守チーフ（県人権教育課）、指導案検討 11月 6日 研究授業（清水小：小川 登美夫） 1月20日 年間総括、「清水の教育」原稿

教育相談部会 『人間関係を考える ～見る・聴く・つなぐ～』

村上 美和	8月 7日 講師招聘（清水小：岡田栄喜）
(8名)	11月 6日 講師招聘（教室で気になる子どもへの関わりについて） 1月14日 年間総括